



## グリーンボンドの発行について

鉄道・運輸機構は「神奈川東部方面線」（相鉄・JR直通線及び相鉄・東急直通線<sup>注1</sup>）の建設を資金使途とする債券の発行を予定しておりますが、このたび、この債券が環境省の募集する「平成29年度グリーンボンド<sup>注2</sup>発行モデル創出事業に係るモデル発行事例」として採択されました。環境省による確認を受けた後、環境省グリーンボンドガイドライン<sup>注3</sup>への準拠を確認したモデル発行事例として初の「グリーンボンド」として発行する予定です。（ご参考：鉄道・運輸機構は平成16年以降、機構債券を定期発行しており、本年11月にグリーンボンドとして第109回債（10年債）の発行を予定しております。）

注1 相鉄・JR直通線は、相鉄本線<sup>にしや</sup>西谷駅～JR東日本東海道貨物線<sup>はぎわ</sup>横浜羽沢駅付近までの連絡線（約2.7km）、相鉄・東急直通線はJR東日本東海道貨物線<sup>はぎわ</sup>横浜羽沢駅付近～東急東横線日吉駅までの連絡線（約10.0km）を指す。

注2 「グリーンボンド」とは、CO<sub>2</sub>削減等の環境改善効果を有する事業を資金使途とする債券で、地球温暖化対策等に資するグリーンプロジェクトに民間資金を導入するための有効なツールの一つとして、近年国際的に市場が拡大している。

注3 環境省グリーンボンドガイドラインは、国際的に広く認知されているグリーンボンド原則（GBP）との整合性に配慮しつつ、発行体、投資家その他の市場関係者の実務担当者の参考になるよう平成29年3月に策定されており、グリーンボンドとして必要な要件等の解釈が示されております。

- 都市鉄道利便増進事業である神奈川東部方面線によって期待される環境改善効果として、バスや自動車から同路線に旅客が転移し、CO<sub>2</sub>及びNO<sub>x</sub>の排出量削減が見込まれます。当機構の推計（平成28年度12月時点）では、CO<sub>2</sub>の削減量は約1,800t-CO<sub>2</sub>/年、NO<sub>x</sub>の削減量は約18t-NO<sub>x</sub>/年となっています。この路線が開業した場合のCO<sub>2</sub>の削減量は、杉の木約2.3km<sup>2</sup>（東京ドーム約49個分とほぼ同等）のCO<sub>2</sub>吸収量に相当します。
- 鉄道・運輸機構は広域鉄道ネットワークの形成と機能の高度化、鉄道の利便性向上を図るとともに、これからもCO<sub>2</sub>排出量の少ない環境にやさしい交通体系の整備に貢献して参ります。

(関連リンク)

・相鉄・JR直通線、相鉄・東急直通線 都市鉄道利便増進事業（神奈川東部方面線）

(<http://www.jrtt.go.jp/O2Business/Construction/const-urbanIndex.html>)

・環境省グリーンボンドガイドライン2017版

([http://www.env.go.jp/policy/greenbond/gb/greenbond\\_guideline2017.pdf](http://www.env.go.jp/policy/greenbond/gb/greenbond_guideline2017.pdf))

本プレスリリースは、鉄道・運輸機構による債券の発行予定を一般に公表することのみを目的としたものであり、鉄道・運輸機構が発行するいかなる証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

【お問合せ先】

独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構

経理資金部 資金企画課 電話 045-222-9040